

令和元年 7月 データから見た業界の動き

■ 概 況

7月の山梨県内のD I値は、全体で売上高は▲14ポイント（対前年比▲26）、収益状況は▲18ポイント（対前年比▲12）、景況感▲12ポイント（対前年比▲10）となり、いずれの項目とも昨年より悪化した。

製造業では、売上高±0（対前年比▲10）、収益状況▲25（対前年比▲15）、景況感▲20（対前年比▲10）と大きく悪化した。金属製品製造業界では米中の貿易摩擦による中国の景気減速や、韓国との関係悪化の影響から受注は減少傾向であり、先行きの見通しもたっていない。菓子製造、山砕石、電気機械部品加工業においては人手不足を懸念する報告があり、長梅雨による天候不順により、洋菓子製造業では冷菓の売上減少、酒類製造業ではワイン原料となるブドウの生育への影響を懸念する報告があった。

非製造業では対前年比で売上高▲23（対前年比▲36）、収益状況は▲13（対前年比▲10）、景況感▲7（対前年比▲10）と、製造業と同様に、いずれの項目とも昨年より悪化。製造業同様に梅雨による影響が報告され、宿泊業や運輸（タクシー）業界では利用客が減少、警備業界では雨による工事現場の中止が続き売上高が減少した。青果小売業では品目によっては高値で推移し、今後の作物の品質を心配する声があった。

また、業種を問わず仕入価格、人件費等のコストの上昇傾向が続いている。人手不足に加え、10月以後の最低賃金の引き上げ、消費税増税では、さらに景気の後退も考えられ、中小企業者の経営力を維持・強化する施策が早急に望まれる。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工業）	ギフト関係は郵便局のカタログ販売が好調で売上高は前年同月比110%。ホル・レストラン・居酒屋向けの業務用は前年並みだが、おせち材料の前倒し受注から全体売上は113.7%と好調であった。
食料品（洋菓子製造業）	天候不順で冷菓は不振であったが、国内外の積極的な店舗展開が功を奏し全体の売上高は前年同月比105%。
食料品（パン・菓子製造業）	9月からの繁忙期に備え人手の確保に取り組んでいるが、必要人員数をそろえるのに苦慮している。
食料品（酒類製造業）	天候不順によりワイン原料となるブドウの病害が発生し、品質低下が懸念される。今後の天候に恵まれる事を期待する。
繊維・同製品（織物）	雨傘は梅雨が長引いているため販売数は伸びている。しかし、すでに納入済みのため新たな生産注文は無い。
印刷・同関連業	用紙・インキの価格高騰から収益が圧迫されている。また、デジタル化によるペーパーレス化の進行、ネット通販印刷の台頭により多くの設備投資を行っている組合員企業への影響が大きい。

窯業・土石（砂利）	地域により需給量の差がある。需給量の増減は工事量の多寡によるところが大きい。公共工事の増加・早期着工に期待する。
窯業・土石（山碎石）	運送業の人手不足が深刻で、製品を輸送する運搬業者の台数が足りなければ事業が成立しない。中部横断道関連工事が終了するとリニア関連工事が中核事業となるが、短期間での工事完成には製品の需給量確保や労働環境の悪化が予想されるため、早期発注を期待する。
鉄鋼・金属 （金属製品製造業）	昨年からの落ち込みが更に厳しさを増している状況。自動車関連の生産の減速の他、中国や日韓関係問題に加え、10月の消費増税と先行き不透明。
一般機器 （工作機械部品加工業）	設備投資は計画的に実施されている。
電気機器 （電気機械部品加工業）	同業者の中に安値による受注業者があり価格を乱している。人手不足と発注時期の重なりが影響し、仕事量が飽和状態にあり、急な案件では好条件の単価での取り引きが行える。
電気機器 （電気機械部品加工業）	国際情勢の悪化に伴い、先行き不透明感が増した。この秋以降はさらに落ち込むと危惧している。
宝飾（研磨）	7月は毎年恒例のジューストーンフェアが2日間行われ活発な取り引きが行われた。

● 非製造業

卸売（紙製品）	取引価格の値下げと大幅な納入量制限により在庫量が増大。在庫を抱えきれない事業所では東南アジア方面へ輸出処分している。需要の拡大を期待するが、消費増税や中国との摩擦の長期化が懸念され先行き不透明。業界では古紙部門のM&Aや事業廃止をする事業者が出てきた。
小売（青果）	長梅雨による日照不足で品目によっては高値で推移した。梅雨明けは秋物野菜の種まきの時期となるが、猛暑の影響を懸念している。
小売 （電気機械器具小売業）	前年の猛暑によるエアコン需要の反動から、今年度は大幅な売上高の減少となった。組合員に対しキャッシュレス決済の普及のためクレジットカード決済方式導入を推進している。
小売 （その他）	組合への加入者を増やし財務基盤強化につなげ共同事業の推進を図っていききたい。
宿泊業	梅雨の長引きや台風の影響から空室が目立った。8月（夏休み）の利用客増加を期待する。
産業廃棄物処理	産業廃棄物の最終処分場や焼却処分場が飽和状態にあり、遠方の処理業者へ依頼するも、入荷制限や処理料金の値上げなど対応ができない状況にある。
警備業	梅雨の天候不順による工事現場の中止が多く、売上高が前年同月比で5%悪化した。警備員不足に対して、顧客の理解が進んだことで取引条件が好転したが、働き方改革により労働時間抑制を行わなければならない、実働時間の減少から事業所では売上の減少、警備員（従事者）では収入の減少が課題である。
建設業（総合）	前年同月比で件数21%、請負金額31%減少した。7月累計も件数で12%、請負金額23%それぞれ減少している。年度当初には山梨県に対する公共事業予算配分額が大幅に増加したとの報道があり、請負金額の増加を期待したが、実感するまでには至らず、今後の動きに期待する。

建設業（型枠）	県内の工事量は堅調に推移し、仕事の少ない長野・静岡等から職人を調達でき人手不足感はあまり感じない。公共・民間工事とも現在は忙しいが秋以降は不透明である。
建設業（鉄構）	鉄骨の建て方は高力ボルトの入手次第での引き合い状況となっているため、受注を控えるケースが見られる。
設備工事（管設備）	水道法の一部改正により、指定給水装置工事事業者制度において指定事業者に対する更新制が10月より導入される。今後は手続き等の概要について注視していく。
運輸（タクシー）	梅雨の影響から夜間の利用客が減少した。ドライバーの求職者は少なく労働力の確保が課題。10月の消費増税により利用客・費用面など影響が出る事を懸念している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2018/7	2019/6	2019/7	2018/7	2019/6	2019/7	2018/7	2019/6	2019/7
売 上 高	10	-30	0	13	-7	-23	12	-16	-14
収 益 状 況	-10	-25	-25	-3	-7	-13	-6	-14	-18
景 況 感	-10	-25	-20	3	-17	-7	-2	-20	-12

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

